沖縄県農業信用基金協会

1. 沖縄県の紹介

沖縄県は我が国の最西南端にあって東西 約 1.000km、南北約 400kmの広大な海域に大小 約 160 の島嶼(うち有人島は 47 島)からな り、わが国唯一の「亜熱帯海洋地帯」にあたり、 自然的、地理的特性を有しています。面積は 約 2,281km (全国 44 位) で国土面積に占める 割合は 0.6%であります。

広大な海に囲まれた亜熱帯地域の温暖な気 候(年間平均23℃)と、琉球王国の文化を生 かした観光が主力産業となっています。

沖縄県には現在も、琉球王国の独特な文化 遺跡が数多く残っており、2000年に首里城跡 をはじめとするグスク(城)及び関連遺産群の 9資産が「世界文化遺産」に登録されました。

また 2021 年 7 月には、奄美大島、 徳之島と共に沖縄県北部(ヤンバ ル地区)及び西表島がきわめて重 要な生物生態系を保有して いるとして「世界自然 遺産|に認定されま した(ヤンバルクイ ナ、イリオモテヤ マネコ、カンム リワシ等)。

その他の特徴として、人口は約146.8万人 (2020年)で出生率は全国46年連続の1位 と元気のある県です。

独特な文化や温暖な気候により、のどか な時間が流れる沖縄へ是非メンソーレ(い らして下さい)。

2. 沖縄県の農業

台風の多い沖縄県にあっては、さとうきび が基幹作物で県内7割の農家が栽培してい ます。地域や島ごとの土壌や自然環境を生 かした農業が営まれ、さとうきび、ゴーヤー、 パインアップル、マンゴーなどの品目は収穫 量全国1位となっています。特にさとうきび は地域農業だけでなく地域社会を支えていま す。作物別の構成比(令和元年)は、肉用牛

円)、豚 13.5% (132 億円)、野菜 14.9% (146 **億円)、花卉 9.5% (93 億円) となっています。**

24.5% (239 億円)、さとうきび 15.6% (152 億

県経済における農業の相対的な位置づけは 低く、総農家数は年々減少傾向にあり、65歳 以上が6割以上を占めています。(産業構造 (H30) 第1次產業1.3%、第2次產業17.9%、 第3次産業 81.3%)



さとうきび

方言名はウージ。 さとうきびは倒れても自然に起 き上がる力をもっているので、 台風の多い沖縄の気象条件下 においては栽培が有利な作物 と言えます。



ゴーヤー (にがうり)

ビタミンCが豊富で、ゴーヤ - に含まれるビタミン C は熱 を加えても壊れにくい特徴が あります。ゴーヤーは沖縄を代 表する野菜で、現在では1年を 通してゴーヤーを食することが できます。



パインアップル

パインアップルは台風や日照 りに強く、沖縄の風土にあった 果物です。苗を植えてから実が できるまで3年かかります。見 た目はゴツゴツしていますが果 汁が多くさわやかな甘酸っぱさ が魅力の人気果実です。



沖縄県を代表する熱帯果樹で 濃厚な甘さと程よい酸味が特 徴です。沖縄のマンゴーは樹 で十分熟してから収穫するた め甘くて美味しいです。栄養 価も高く美容効果や風邪の予 防に効果があるとされています。



小菊(切り花類)

小菊は出荷量で全国1位。 他産地の出荷が減少する正月 用と3月彼岸用の出荷につい ては責任産地となっており、3 月彼岸期販売量の95%は沖縄 からの出荷となっています。



シークワーサー

青い果実で収穫したものは、レモンや酢の代わりに料理やジュースとして使われます。シークワーサーの「シー」は「酸」、「クワーサー」は「食わせる」という意味で「酸を食べさせる」いう意味です。



デンファレ(洋ラン)

可憐な花姿と上品さを併せ持ち、華やかな場所である結婚式やイベント会場などによく飾られる花です。(全国シェア3位)



肉用子牛(黒毛和種)

年間を通じた牧草資源を活かし、 八重山・宮古地域を中心に県内 各地で生産されています。 特に子牛の生産は全国でも5 位と有数の産地となっています。

3. 沖縄県農業信用基金協会の概要

当協会は、本土復帰の年である昭和47年7月31日に設立され、今年で50周年を迎えます。役員は10名(理事7名、監事3名)で、専務を常勤とし職員10名が3課(総務課、業務課、管理課)で業務にあたっていましたが、創立50周年を機に、出向く体制の強化を図る為、機構改革を行いました。令和4年度から2部制(総務部、業務部)でスタートします。



JA会館玄関前にて撮影

4. 沖縄県農業信用基金協会の活動

当県は県単一JA (沖縄県農業協同組合: 平成14年4月に県下27のJAが合併、平成17年8月に連合会が統合)のため、JAとの連携強化に取組んでいます。JAのキャンペーン等に呼応し、保証料軽減措置等を実施するなど、融資・保証伸長に向けてJAとの意見交換会を定期的に実施しています。その結果、主力商品である住宅ローン、マイカーローンは順調に伸長し、令和元年度に初めて保証残高500億円の大台に乗せることができました。

近年は保証機関間の競争激化もあり、ネットローンの未導入の当協会には厳しい状況下となっていますが、出向く体制の強化等によ

り支店担当職員へのアプローチを心がけています。本年度は(独)農林漁業信用基金からの助成金を活用して手帳を作成、専務以下全職員で県内融資機関(JA一部離島を除く全支店)を巡回しました。

また JA の農業賃金パンフレット (冊子) に 農業信用保証保険制度のページ掲載や保証の 迅速性を図るため一部の農業資金は追認型対 応へ変更しました。

コロナ禍となり、従来開催していた研修会や支店毎の勉強会、またトレーニー受入れ等厳しい状況ではありますが、引続き JA 担当者との友好関係を築き、選ばれる保証機関となるよう取組んで参ります。